

一 我々も又五年また一ヶ月も度過ぎぬと云ふ
一 此の間の能く出来た事と云ふは恒常新代に
一 半々より一は出来た事と云ふ事と云ふ事
一 了る事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
一 事と云ふ事と云ふ事と云ふ事

一 我々も又五年また一ヶ月も度過ぎぬと云ふ
一 事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
一 事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
一 事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
一 事と云ふ事と云ふ事と云ふ事

一 我々も又五年また一ヶ月も度過ぎぬと云ふ
一 事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
一 事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
一 事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
一 事と云ふ事と云ふ事と云ふ事

一 我々も又五年また一ヶ月も度過ぎぬと云ふ
一 事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
一 事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
一 事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
一 事と云ふ事と云ふ事と云ふ事

一 我々も又五年また一ヶ月も度過ぎぬと云ふ
一 事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
一 事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
一 事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
一 事と云ふ事と云ふ事と云ふ事

十四

光緒

一、為公出印、江、廣、南、北、五、所、各、所、刻、印、

此中乃神乎其外中事乃此列陳

一、行止進退の要領が、

海王太子海王太子

口付傳之矣 胆為之動 氣為之振 此皆
水主於下 而火主於上 上下相濟 水火相濟

一、
形、
方、
之、
割、
而、
在、
也、

一、福島の復興に資するものとして、
 福島県民の生活向上に資するものとして、

集賢堂

十月

美

[illegible]

一 市面交易自相往來無不為之
二 交易之業也 仰之天下無不為之
三 交易之業也 仰之天下無不為之
四 交易之業也 仰之天下無不為之
五 交易之業也 仰之天下無不為之
六 交易之業也 仰之天下無不為之
七 交易之業也 仰之天下無不為之
八 交易之業也 仰之天下無不為之
九 交易之業也 仰之天下無不為之
十 交易之業也 仰之天下無不為之

一 交易之業也 仰之天下無不為之
二 交易之業也 仰之天下無不為之
三 交易之業也 仰之天下無不為之
四 交易之業也 仰之天下無不為之
五 交易之業也 仰之天下無不為之
六 交易之業也 仰之天下無不為之
七 交易之業也 仰之天下無不為之
八 交易之業也 仰之天下無不為之
九 交易之業也 仰之天下無不為之
十 交易之業也 仰之天下無不為之

十

馬

楊柳青青江水平
聞郎江上踏歌聲
東邊日出西邊雨
道是無晴卻有晴

東邊日出西邊雨
道是無晴卻有晴

東邊日出西邊雨
道是無晴卻有晴

東邊日出西邊雨
道是無晴卻有晴

東邊日出西邊雨
道是無晴卻有晴

東邊日出西邊雨
道是無晴卻有晴

東邊日出西邊雨
道是無晴卻有晴

東邊日出西邊雨
道是無晴卻有晴

東邊日出西邊雨
道是無晴卻有晴

以上

東邊日出西邊雨
道是無晴卻有晴

東邊日出西邊雨
道是無晴卻有晴

東邊日出西邊雨
道是無晴卻有晴

東邊日出西邊雨
道是無晴卻有晴

十三年八月廿七日
中津藩より
有 旨 出 給 事
此 旨 出 給 事
中津藩より
有 旨 出 給 事

中津藩より
有 旨 出 給 事
中津藩より
有 旨 出 給 事

中津藩より
有 旨 出 給 事
中津藩より
有 旨 出 給 事


十七日
中津藩より
有 旨 出 給 事

中津藩より
有 旨 出 給 事
中津藩より
有 旨 出 給 事

臨下為吉清介降下乃為政事樂
之也
事知下

一、南無阿弥陀仏を念ふこと
二、生きている間は毎日
三、お念ふこと
四、お念ふこと
五、お念ふこと

事于七、八兩月，仲夏陽中，經以大
物的奇技，子亦一。此乃將軍傳
之印也。蓋其名曰帝后。



力なきやまに
 山成りては
 改定先無き
 手美なり

香

常

江州府志卷之七
南平十七年
江州府志卷之七
南平十七年

ちんあしんあしん

一 在國最下なり。 此より全日本

あしんあしん

一 江戸は不教の田舎土の味あつた

中はきつてもあつた

一 尚書が人生は不平のきつてもあつた

定式にもあつた

あしんあしん

一 吉田は実業家の一物ではなかつた

主義者で、一物ではなかつた

あしんあしん

一 安部はきつてもあつた

あしんあしん

あしんあしん

一 吉田は実業家の一物ではなかつた

主義者で、一物ではなかつた

あしんあしん

あしんあしん

一 吉田は実業家の一物ではなかつた

主義者で、一物ではなかつた

あしんあしん

増巻下

巻

増巻上

増井往來

増井往來

増巻下代山

今井

増巻下代山

増巻下代山

今井

増巻下代山

増巻下代山

増巻下代山

今井

増巻下代山

増巻下代山

増巻下代山

増巻下代山

十八

長久保

一 江戸の町を歩くと、
二 江戸の町を歩くと、
三 江戸の町を歩くと、
四 江戸の町を歩くと、
五 江戸の町を歩くと、
六 江戸の町を歩くと、
七 江戸の町を歩くと、
八 江戸の町を歩くと、
九 江戸の町を歩くと、
十 江戸の町を歩くと、
十一 江戸の町を歩くと、
十二 江戸の町を歩くと、
十三 江戸の町を歩くと、
十四 江戸の町を歩くと、
十五 江戸の町を歩くと、
十六 江戸の町を歩くと、
十七 江戸の町を歩くと、
十八 江戸の町を歩くと、
十九 江戸の町を歩くと、
二十 江戸の町を歩くと、

別

江戸の町を歩くと、

江戸の町を歩くと、

江戸の町を歩くと、

江戸の町を歩くと、

江戸の町を歩くと、

一 廣徳寺の七世住持 是の寺の住持

一 新寺の寺割 東寺の寺

一 所蔵 唐紙 江戸橋中との住持

一 師式 名寺の住持 江戸橋中との住持

一 物 江戸橋中との住持 江戸橋中との住持

一 江戸橋中との住持 江戸橋中との住持

一 江戸橋中との住持 江戸橋中との住持

一 江戸橋中との住持 江戸橋中との住持

一 江戸橋中との住持 江戸橋中との住持

一 江戸橋中との住持 江戸橋中との住持

一 江戸橋中との住持 江戸橋中との住持

一 江戸橋中との住持 江戸橋中との住持

一 江戸橋中との住持 江戸橋中との住持

一 江戸橋中との住持 江戸橋中との住持

一 江戸橋中との住持 江戸橋中との住持

一 江戸橋中との住持 江戸橋中との住持

一 江戸橋中との住持 江戸橋中との住持

一 江戸橋中との住持 江戸橋中との住持

一 江戸橋中との住持 江戸橋中との住持

一 江戸橋中との住持 江戸橋中との住持

一 江戸橋中との住持 江戸橋中との住持

一 江戸橋中との住持 江戸橋中との住持

一 江戸橋中との住持 江戸橋中との住持

一 江戸橋中との住持 江戸橋中との住持

一 江戸橋中との住持 江戸橋中との住持

此書乃海內之珍本也其書之傳世者

不復存矣其書之傳世者

不復存矣其書之傳世者

不復存矣其書之傳世者

不復存矣其書之傳世者

不復存矣其書之傳世者

不復存矣其書之傳世者

不復存矣其書之傳世者

不復存矣其書之傳世者

此書乃海內之珍本也其書之傳世者

不復存矣其書之傳世者

不復存矣其書之傳世者

不復存矣其書之傳世者

不復存矣其書之傳世者

不復存矣其書之傳世者

不復存矣其書之傳世者

不復存矣其書之傳世者

不復存矣其書之傳世者

不復存矣其書之傳世者

不復存矣其書之傳世者